

Introduction and Geology

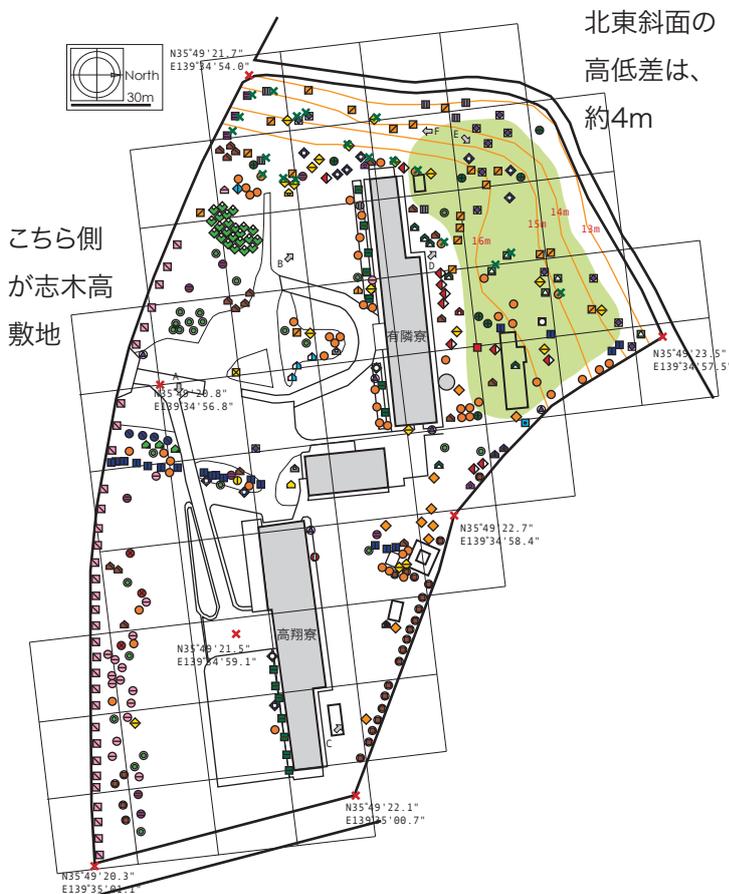
寮の跡地

志木高北側の道路をはさんで向い側の敷地は、本校のかつての寮跡地であった。1962年に有隣寮が、1964年に高翔寮が落成し、多くの寮生が巣立っていった。

この寮跡地は、慶應義塾の財政的な事情により第三者に売却されたが、それに先立って、樹木の構成をまとめておいた。

別の場で詳細にまとめる機会もあるだろうが、在校生の多くにどのような土地であったかをしてもらいたい必要があると思ひ、ここに簡単に掲載したい。

寮の跡地は、南北約300m、東西約200mの縦に長い逆台形であり、北東縁に校内唯一の斜林をもつ。今回の調査により、寮跡地に生育する樹木は(29科46属)53種あり、ムクノキが多い(=優占する)特徴的な構成であることがわかった。また、北東側斜面にはアカマツ、クリ、コナラ、クヌギなどを主体として典型的な里山斜面林の構成であった。



また、この寮跡地には、本校敷地内では見つからない、マユミやムクロジ(羽根つきの羽の黒い玉の部分はこれの種)、ツルウメモドキなど木々が生えている。

さらに、林の下に目を向ければ、やはり本校敷地内にはないネムノキ等の実生がある。

今回は動物まで手が回らなかったが、調査中もかなりの数の鳥類の飛来を確認できた。おそらく、夜間にタヌキやネズミ等のげっ歯類を見ることもできただろうが、記録には残せなかった。

(Miyahashi)

志木の自然[神無月(10月)～睦月(1月)]

神無月以降、校内が実りの季節を迎えるにつれ、カキ等の果実を目当てにした野鳥の来訪が目立つようになる。多くの木々が落葉したことで、枝に留まるシジュウカラやコゲラの姿を確認するのが容易になる。また、早朝は気温が低いために鳥達の活動は鈍く、意外な近さで鳥が観察できたりする。

また、夜の南天にはオリオン座が見えるなど、天体観測に最適の時期はしばらく続く。12月9日ならびに1月1日から3日にかけて、積雪を記録した。

Plants [10月～2003年1月までの記録とこれからの見通し]

この時期の志木高内は、落葉樹が葉を落とすため、逆に常緑樹の確認が容易である。樹に巻き付いて結実しているのはキツタ。同じく結実して、手のひらのように裂けた葉をもつヤツデ。ときに斑入り(ふいり:白い斑点が入っているもの)の葉をもつアオキ。葉裏が白いシロダモ。これらの木々は冬の林床部に目立つ低木類である。

【2003.1.5】ヤエザクラが一株開花中。

【2003.1.5】シジュウカラ3羽、ヒヨドリ5羽、ムクドリ20羽、キジバト5羽、スズメ30羽を確認。



【2003.1.5-15】生物室前の池はほぼ連続して結氷している。

【2003.1.5】芝生のビワが開花中。5弁のクリーム色の花を咲かせている。

【2003.1.5】駐車場後ろのカキノキは渋柿だが、完熟すると鳥がよく集まる。200個ほど残っていた実には、ヒヨドリ、スズメ、メジロ、キジバトが来訪し、突ついていた。

【2003.1.5】ユッカ(リュウゼツラン科:尖った細身の葉を持つ)の開花期が間もなく終了。

(Miyahashi)

この限られた紙面では、どのような植物、動物かをすべてお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館で一度調べてみてください。

2003年1月から2003年4月までの野鳥来訪観察記録

2003年1月から4月にかけて、13-15時の時間帯に志木高で観察された鳥は次の通りです。
()内は確認できた個体数を表します。

5th Jan. 2003	シジュウカラ(6)、ヒヨドリ(10+)、メジロ、キジバト(5+)、スズメ(30+)、ムクドリ(20+)
9th Feb. 2003	ムクドリ(20+)、ホオジロ(2)、オナガ(1)、アオジ(2)、キジバト(6+)、ハシブトガラス(2)、ドバト(2)、シジュウカラ(3)、ヒヨドリ(2+)、スズメ(30+)
9th Mar. 2003	シジュウカラ(10+)、スズメ(20+)、ツグミ、キジバト(3)
24th Mar. 2003	ツバメ【初認=今年初めての確認】、シジュウカラ(3)、ヒヨドリ(5)、メジロ(10)、キジバト(1)、スズメ(5)、ムクドリ(15+)
4th Apr. 2003	ヒヨドリ、キジバト(10)、ツグミ、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ(20)、ムクドリ(20)

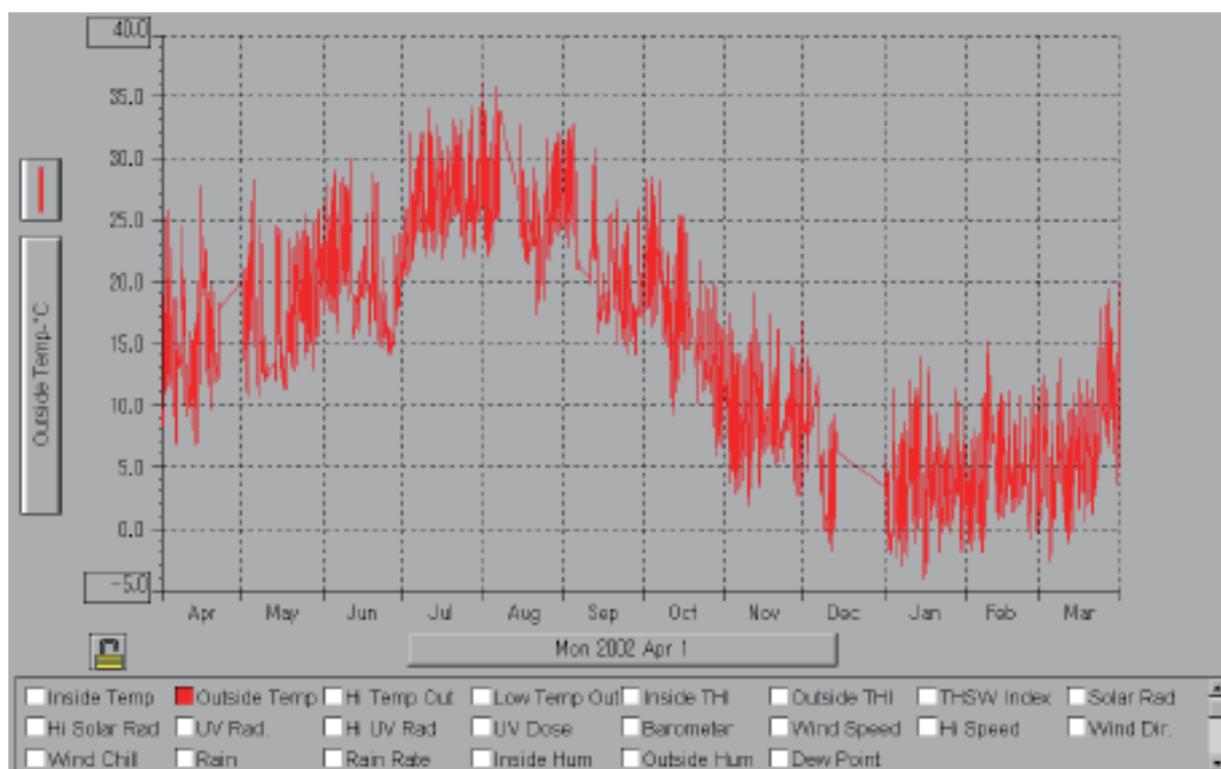
(Hayami/Miyahashi)

Meteorology

志木高構内の気温変化

1999年より校内で10分ごとの気象観測を行っています(もちろん自動化されている)。観測している気象要素は、気温をはじめ気圧、風向・風速、降水量(雪を除く)、湿度、太陽放射、紫外線等です。これは2002年度(2002年4月1日~2003年3月31日、一部欠測日あり)一年間の気温変化をグラフにしたものです。

夏は最高気温が35℃を超える日が数日(8月は欠測の期間があるのもっと多いかも)、冬は最低気温が氷点下の日が多く、志木は東京よりも気温の年変化や日変化が大きいことがわかります。これは志木が海から遠い分、やや内陸性の気候を示していると考えられそうです。



(Higuchi)

四季折々(一月の俳句)

寒鯉は車庫の電車か動かざり

高宮 惇

皆同じ音を立て踏む霜柱

雄

寒雀枯葉の色に混ざりけり

康晴

これらの句は、在校生の諸君が創作したものです。

鯉は、教員室直下の防火用水に、スズメは本校のいたるところにいます。

霜柱は、土壌中の水分が毛管現象で吸い上げられながら結氷してできるものですが、東久留米市にある自由学園の女子学生達がまとめた優れた研究が知られています。

執筆・担当区分	俳句	本井 英 (Motoi)
	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	鳥類他	速水 淳子 (Hayami)
	樹木・小動物[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)